

NEWSLETTER FROM
TICON GROUP

FORWARD

OCTOBER-DECEMBER 2014 | ISSUE 4

TPARK営業
チームと膝を
交えて面談

世界にはいくつの
ゴルフ場があるか
ご存知ですか？

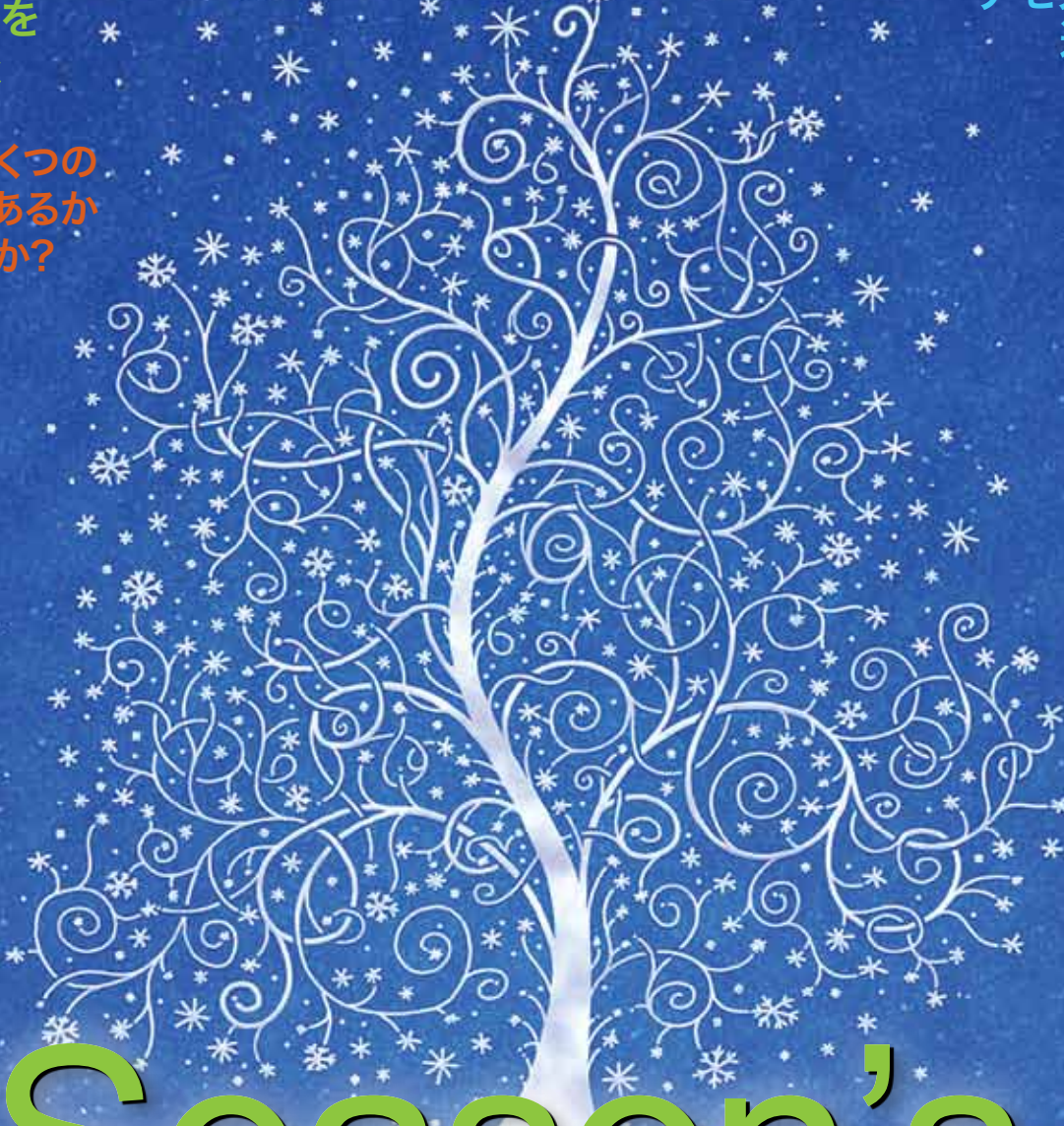
(第2部)

ピントン工業団地

内タイコン工場の詳細
をご紹介します

持続性のある道：
タイへの投資が
アセアンへの
道を拓く

(第2部)



Season's
Greetings





Mr. Virapan Pulges
Managing Director
TICON Industrial Connection Public
Company Limited

Message from the Managing Director

2014年が終わろうとしています。2014年は政治的要因、経済情勢、投資の減速など、TICONグループが様々な課題に遭遇し、同時にそれらを乗り越えた年でした。TICONは戦略的な用地、商品やサービスの品質といった我々自身が有する確固とした強みを生かしてこれらを克服し、タイにおけるレンタル工場・倉庫のデベロッパー及びサービス提供会社としてNo.1の位置を保っています。

TICONグループの最近の動向として、ピントン5工業団地に290ライを超える土地を購入したことが挙げられます。レムチャバン地区でいい立地を求めている事業会社（特に自動車産業）のニーズに応えるために確保しました。倉庫部門では、スティールファイバー強化コンクリート（Steel Fibre Reinforced Concrete = SFRC）技術を有するTwintec Industrial Flooringと協力関係を結び、TPARKイースタンシーボード3プロジェクトの床工事にこれを使用することにしました。

さらに、我々はTICON保有・賃借不動産投資信託のTREIT (TICON Freehold and Leasehold Real Estate Investment Trust)を正式に立ち上げました。機関投資家・個人投資家の皆様から大きな反響を得ています。調達資金は2015年のAEC発足に合わせてグループを成長させるための土地の購入と工場・倉庫の拡張に充てる予定です。

この機会をお借りして、TICONグループを代表して、本年における皆様のご支援に御礼申し上げます。また、継続して賃貸工場・倉庫デベロッパーとしてNo.1の地位を維持している我々の成功に欠くことができない構成要素、即ち従業員の会社に対するためめ貢献にも謝意を表したいと思います。

新年を迎えるにあたり、読者の皆様が健康、財産、家族、事業などすべての面で望みを適えられるようお祈りし、皆様が新年を愉快で明朗な気持ちで迎えられ、来年もそれ以降も楽しく過ごされることを心より願っております。

Happy New Year

ISSUE 4
OCTOBER-DECEMBER 2014

CONTENTS

3 SPECIAL COLUMN

HIDROMEK

4 FACTORY SPOTLIGHT

ピントン工業団地内タイコン工場の詳細をご紹介します

6 WAREHOUSE SPOTLIGHT

TPARK営業チームと膝を交えて面談

8 JAPAN CORNER

世界にはいくつのゴルフ場があるかご存知ですか？
(第2部)

10 INVESTOR'S FOCUS

2015年のアセアン経済共同体発足がタイにもたらす効力を利用した投資利回りの最適化

11 NEW TENANTS

12 PROPERTY HIGHLIGHT

13 EVENTS NEWS

14 COFFEE TIME WITH GURUS

持続性のある道：
タイへの投資がアセアンへの道を拓く (第2部)

15 TAKE A BREAK

レストラン“カイ・フップボーン”

FORWARD

Consultants: Mr. Virapan Pulges, Mr. Tan Jitapuntkul
Executive Editor (English): Ms. Hataikan Duttadintorn, Mr. Ruairidh Watters
Executive Editor (Japanese): Mr. Takashi Fuse
Executive Editor / Art & Design Director: Ms. Hataikan Duttadintorn
Editorial Staff: Mr. Thanatdech Sirivoranan

TICON TPARK

Published on Behalf of: **TICON GROUP**

175 Sathorn City Tower, 13th Floor, Suite 1308, South Sathorn Road, Sathorn, Bangkok 10120 Thailand
Tel: +66 (0) 2679 6565 **Fax:** +66 (0) 2679 6569 **Email:** logistics@ticon.co.th www.ticon.co.th

Follow us on Twitter@TPARK_Live

HIDROMEK®

HIDROMEK CONSTRUCTION EQUIPMENT (THAILAND) LTD. は、トルコの建設機械メーカーHIDROMEK社のタイ国における建設機械製造会社ですが、最近その建設機械用部品倉庫として、アマタナコン工業団地内のTICON工場(2,700㎡)を賃借しました。

HIDROMEKはトルコのバックホーローダーおよび油圧ショベル市場でトップシェアを誇る建設機械メーカーです。同社は日本の三菱重工業(MHI)社から、モーターグレーダを製造するためのノウハウ、技術、アフターサービス機能、およびタイにおけるモーターグレーダの製造事業を買収した後、アマタナコン工業団地でHIDROMEKブランドのモーターグレーダの製造を開始しました。同社は現在、本国トルコのアンカラに3カ所、同国イズミールに1カ所、そしてタイに1カ所の計5カ所に製造拠点があり、およそ1,800人の従業員を雇用しています。

販売増やディーラー網の成長に伴い、HIDROMEKは新たな製造拠点の確保や製造設備の拡充といった投資を継続。このほどアンカラで新工場の設立を発表しました。新工場では油圧ショベルを製造し、製造能力を数倍に引き上げる計画です。

KHL 出版グループがまとめた2013年の世界の建設機械メーカーTOP50

“KHL 出版グループがまとめた2013年の世界の建設機械メーカーTOP50で、HIDROMEKは46位にランクされました。トルコ企業として初のランクイン、かつ唯一の建設機械メーカーです。”

で、HIDROMEKは46位にランクされました。トルコ企業として初のランクイン、かつ唯一の建設機械メーカーです。

HIDROMEKは今や世界5大陸の50以上の国々にバックホーローダーおよびショベルを輸出しています。同社は全世界で100社を超えるディーラーと提携し、ヨーロッパの事業はスペインのバルセロナに拠点を構えるHidromek Westが担当しています。最近ではウクライナ、ベラルーシ、ポーランドといった国々の市場に対応すべく、ロシアに顧客サポートと部品供給拠点を設置しました。

HIDROMEKブランドのバックホーローダーとショベルは、同社が自ら設計し製造しています。徹底した品質保証システムによって品質を維持し、製品は他の有名ブラン

ドにも引けをとりません。使用される部品は世界的に知られたサプライヤーから輸入しています。

HIDROMEKが工業デザインの分野で成果を収めていることは国際的に認知されています。2008年と2010年には、バックホーローダー・マエストロ・シリーズで「優秀デザイン賞」を、またショベルのジェン・シリーズではデザイントルコによる「グッドデザイン賞」を獲得しました。HIDROMEKはこれらの部門で2つの賞を連続して獲得した唯一の企業です。更に2011年にも、同社は米国で最も権威のあるデザイン賞のひとつである、グッドデザイン賞による工業「グッドデザイン2011」に選ばれています。2012年にはドイツの「アイエフ製品デザイン賞」を受賞しています。■



ピントン 工業団地

内タイコン工場の 詳細をご紹介します

間もなく2014年が終わりますが、その前に東部の興味深いプロジェクトであるピントン工業団地のプロジェクト1～3をご紹介します。このプロジェクトは殆ど全ての工場が埋まっている盛況ぶりです。当社は最近、ピントン工業団地-5において290ライ超の土地を追加購入しました。これにより、タイコンが同団地内に所有する賃貸工場の総面積はほぼ300,000㎡になります。

ピントン工業団地のこれら4カ所のプロジェクト内に建つタイコンの工場はすべて、自動車産業や電子産業など東部の各種重要産業にとって戦略性の高い国道であるチョンブリ県の331号沿いにあります。さらにタイコンの工場には公共サービス設備が完備されており、プロジェクト1～3は既にサービスを開始、プロジェクト5は来年初めに建設着工し、2015年第3四半期以降のサービス開始を予定しています。

距離表 (KM)

場所	ピントン工業団地			
	プロジェクト 1	プロジェクト 2	プロジェクト 3	プロジェクト 5
バンコク	95	100	104	110
スワンナプーム空港	80	85	89	95
レムチャバン港	9	13	17	23
レムチャバン工業団地	8	12	16	22
アマタシティ工業団地	36	32	28	24
イースタンシーボード工業団地 (ラヨン)	27	23	19	13
ヘマラート・チョンブリ工業団地	15	11	7	12



ピントン工業団地内のプロジェクト1～3及び5のタイコン工場の特徴は以下の通りです。

- レムチャバン港に近い一等地
- 東部自動車産業の中心地
- アマタシティー、イースタンシーボード(ラヨン)、レムチャバンなどの重要工業団地に囲まれた場所
- 様々な面積の工場が提供可能

ピントン工業団地 プロジェクト1の内容

工場総面積: 47,275 sq m
工場面積: 1,200 - 4,400 sq m
床耐荷重: 3 Tons / sq m
天井高さ: 7 meters

ピントン工業団地 プロジェクト2の内容

工場総面積: 33,400 sq m
工場面積: 1,800 - 3,600 sq m
床耐荷重: 3 Tons / sq m
天井高さ: 7 meters

ピントン工業団地 プロジェクト3の内容

工場総面積: 38,100 sq m
工場面積: 1,800 - 4,800 sq m
床耐荷重: 3 Tons / sq m
天井高さ: 7 meters

ピントン工業団地 プロジェクト5の内容

工場総面積: 166,525 sq m
工場面積: 1,300 - 4,800 sq m
床耐荷重: 3 Tons / sq m
天井高さ: 7 meters



TPARK営業

チームと膝を交えて面談

今年最後にお届けするWAREHOUSE SPOTLIGHTコラムはこれまでと趣を変えて、読者の皆さんにTPARKの牽引車である営業チームのインタビューを掲載します。第一線に立つ男女から成るこのチームは顧客満足度の最大化に励んでいます。

まずは7人のメンバーをご紹介します。営業全般の責任を担うのは、TPARK営業部長のピヤナート・シータバーン(チェリー)です。6人の営業チームメンバーは次の通りです。1. 営業部長補佐のアティパット・ペートカチャー(テム)(即入居可能倉庫担当)、2. 営業部長補佐のナパナン・タンティカーノン(トゥー)(注文倉庫担当)、3. 営業部マネージャーのタウィー・サック・カムソーダー(モート)(パンブ

リ、パントン地区担当)、4. 営業部上級担当者のサランヤー・ローンサクン(ギフト)(シラチャ、アマタナコン地区担当)、5. 営業部上級担当者のタニーヤー・ローヒトラッサミー(フォン)(レムチャバン、イースタンシーボード担当)、6. 営業部担当者のスワディー・ピヤンナキット(チャー)(バンナ地区担当)。

TPARK 営業チームの 職務は何ですか？



チェリー：私たちの仕事はお客様のニーズを理解し、お客様に最良の選択肢を提案することです。これを達成するため、私たちはお客様と緊密に接し、細部に至るまでお客様の必要とされることを全てをカバーします。



テム：私たちの主要業務は、お客様の要求に見合う倉庫のサイズと立地が得られるようにお客様をお手伝いすることです。これは結果として運用コスト削減のお手伝いすることにつながります。



トゥー：私は注文倉庫を担当していますので、テムのチームとは職務が異なります。私たちの仕事は、お客様が思い描くビジョンを実現することにあります。私たちはあたかもお客様の会社組織の一部であるかのようにお客様と緊密に接触し、お客様が描いていることを実現するため、その要求に最大限の注意を払います。お客様が倉庫建設のための土地を求めているならば、その投資コストが最大に生かせるように、検討に値する最善の土地を我々のチームが特定し提案します。

とても興味深いお話です。ではこれまでに経験した忘れ難いケースや顧客からの良い反応があればお聞かせください。



チャー：私が記憶しているのは初の契約締結に至った私の最初のお客様のことです。印象深くかつ驚きだったのは、契約に至るまでは通常長い時間を要しますし、場合によっては1年もかかるのに対し、このケースは僅か1ヵ月で契約に至ったことです。この取引のすべてが円滑に進んだ背景には、倉庫の場所がお客様の物流面のすべての要求に完璧に適っていたということがあります。このお客様はTPARKのサービスと倉庫の品質に全幅の信頼を寄せていましたので、躊躇されることなく当社とのビジネスを決定されました。



チェリー：TPARKで9年近く働いてきた私としては話したいことがたくさんありますが、最近の印象深い話といえば、工業省工場局による危険物倉庫の検査に対応するため、情報と証拠をどのように準備したらいいかという相談を受けたことです。私たちは検査当日、役所からの質問に答えるためのお手伝いをお客様に申し出ました。当日はすべてが順調に進み、お客様からは我々のサービスに対する感謝の言葉をいただきました。



Napanun Teeratanikanont
Assistant Head of Sales
(Built-to-Suit)

Taweesak Kamsoda
Sales Manager for Bangplee
and Panthong areas

Thaneeya Rohitrussamee
Senior Sales Executive
for Laemchabang and
Eastern Seaboard areas

Saranya Rongsakul
Senior Sales Executive
for Sriracha and
Amata Nakorn areas

Suwadee Pianmanakit
Sales Executive for Bangna area

Atipat Patkhacha
Assistant Head of Sales
(Ready-Built Warehouse)

Piyanath Sritapanu
TPARK Head of Sales

TPARK といえば何を思い浮かべますか？



ギフト： 私が思い浮かべるのは、一等地にある高品質の倉庫を求めるお客様の要求に応えるため、全国に展開している立地です。



モート： 私の場合は倉庫の供給態勢が整っていることです。我々の即入居可能な倉庫をお使いいただくことによって、お客様は倉庫の建設や土地の確保などを待つ必要はなくなり、直ちに業務を開始することができます。



フォン： 私が思い浮かべるのは「高品質倉庫」です。TPARKの倉庫は、床、屋根、屋内の換気など細部に至るまで注意が払われ、非常に良く開発されている倉庫と言えます。

お別れする前に、読者へのメッセージをお願いします。



チェリー： この機会をお借りして、TPARKのすべてのお客様に、そのご支援に対する謝意を表したいと思います。営業部長として、私及びチームの各メンバー全員が今後とも最善のサービス提供を継続してゆくことをお約束いたします。



テム： 新年が皆様にとって良いお年であることを祈ります。皆様があらゆる面で望みを適えられ、幸せになられますように、そして来年も皆様とご一緒に仕事ができることを願っています。



トゥー： 来年もそしてそれ以降も皆様が健康で幸せであられることを願っています。



モート： 来年皆様からのご用命を受ける機会を切に望んでおります。またお会いしましょう。



Mr. Takashi Fuse
Advisor
TICON Logistics Park Co., Ltd.

世界にはいくつの ゴルフ場があるか ご存知ですか？ (第2部)

“many Japanese business people love playing golf and it's true that majority of them talk about golf before starting to talk about business. If they both love golf, it is likely that they would spend more time for golf than for business.”

タイのゴルフ場

それではタイにはいくつのゴルフコースがあるのでしょうか。冒頭の資料によれば2008年時点で200カ所、世界で18位となっています。一方、タイ政府系銀行である土地住宅銀行の不動産情報センターによれば、2011年6月現在で、9ホールまたはそれ以下のホール数のゴルフ場も含めると、全体で250カ所とことです。確かに地方には9ホールのゴルフ場がありますが、こうした小規模ゴルフ場を除いて18ホール以上のコースだけを集計すると約200カ所という数字になるようです。ここ数年で新規ゴルフ場がいくつかオープンしていますので、現在ではもう少し増えているでしょうが、それでも205とか210といったところでしょ。日本の10分の1以下です。

国土面積は日本の1.4倍、日本よりも平野部が多いにも拘らずタイのゴルフ場数が少な

い最大の要因はゴルフはカネがかかりすぎることにあります。クラブ、バッグ、靴、手袋、ウェアなどを安価なもので揃えたとしても最低4-5万パーツはかかるでしょうし、コースに出れば更に出費が必要です。

国際的に活躍するタイ人プロゴルファーが出てきたことに刺激を受けて子供をゴルフレッスンに通わせる親がいたり、所得上昇によってゴルフを楽しむ人たちが徐々に増えているのは事実ですが、一般のタイ人にとってゴルフはまだ高嶺の花であり、ゴルフ人口が急増してゴルフ場の数が飛躍的に増加することはないでしょう。

なぜ日本人はゴルフが好きか

一般的に日本人ビジネスマンの多くはゴルフ好きで、仕事の話に入る前にひとしきりゴルフ談義をする人が多いのは事実です。特に双方がゴルフ好きとなれば、仕事よりもゴルフ談義の方が長くなることすらあります。初対面であっても、共通の話題(ゴルフに限らず)は双方の距離を縮める潤滑油の役目を果たします。

ではなぜ日本人はこうもゴルフ愛好家が多いのでしょうか？ 私見ですが、三つほど理由が挙げられます。

第1はこのスポーツは年をとってもできること。ゴルフはスポーツではないという方もいますが、その議論はここではしません。若ければ体力が要求されるスポーツをすることが可能ですが、年齢を重ねるに従って体力が落ち、

激しいスポーツはできなくなります。それに代わるのがゴルフです。体力が落ちてでも健康であればプレーは可能ですし、熱心に練習すればエイジシューティングも夢ではないでしょう。

第2は仕事上の付き合いに必要ということです。かつてビジネスマンの最大の付き合い手段は麻雀でしたが、いまやこれはすっかり廃れました。街中の雀荘も姿を消してしまいました。若い人たちはの関心事はPCやスマートフォンを使ったゲームでしょうが、中年のおじさんたちはあの小さい画面を相手に老眼鏡を頼りにゲームをする気にはならないでしょう。時間の無駄ですし、仕事を進める上で何の役にも立ちません。彼らのやるのはやはりゴルフです。ゴルフの付き合いが新たなビジネスにつながる可能性があるのです。

第3は日本人の向上心です。少しでもスコアを縮めるべく練習して技術を磨き、グロススコア90を切る、或いは一桁のハンディキャップを目指す。仕事であれスポーツであれ、日本人は目標を設定し、それに向かって努力するのが好きなのです。アベレージゴルファーにとって、バーディーが取れた時、初めて90を切った時、初めてハーフ30台が出た時の喜びは本当に大きい。これは何度経験しても快感であり、これを経験したくて熱心に練習しコースに出るのです。

タイでのゴルフを楽しみましょう

タイはゴルファーにとって天国です。4人

のプレーヤーにキャディ1人が当たり前(キャディ代が高いため、キャディなしでプレーすることもあります)の日本と違い、タイではゴルファー1人にキャディ1人、しかも若い女性キャディ(中にはそうでないものもありますが)がついてくれるとなれば、それだけで天国でしょう。日本からタイに到着する航空便の荷物の中にはいつもたくさんのゴルフバッグ含まれています。

ピンまでの残り距離が分からない、グリーンのパットングラインが読めない、自分たちのお喋りに夢中でボールの行方を見ていない、プレーヤーの後ろからのんびりついてくる、ろくなサービスもしないのにチップをもらうのは当たり前と考えている等々、いろいろご不満はおありでしょうが、キャディと思うから不満がたまる訳で、道具を運んでくれる人、それ以外は期待しないと割り切れればあまり腹も立たないでしょう。

タイ駐在者にとっても観光客にとってもタイはゴルファーにとってまだまだ天国です。せいぜいエンジョイしましょう。■





Mr. Samart Russameerojwong

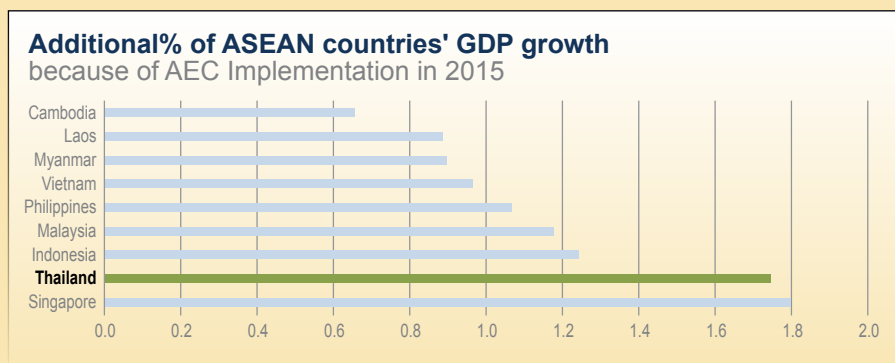
Chief Investor Relation
TICON Industrial Connection Plc.

2015年のアセアン経済共同体 発足がタイにもたらす効力を利用 した投資利回りの最適化

タイは2015年末のアセアン経済共同体(AEC)の発足により、いくつかの利益を享受することになります。その中のひとつが、アセアン加盟国間の輸入関税免除で、CLMV諸国(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)の輸入関税0%はその最たるものです。GDPと外国貿易を含むタイ経済は、以下に説明する変化のおかげで、さらなる成長が見込まれます。

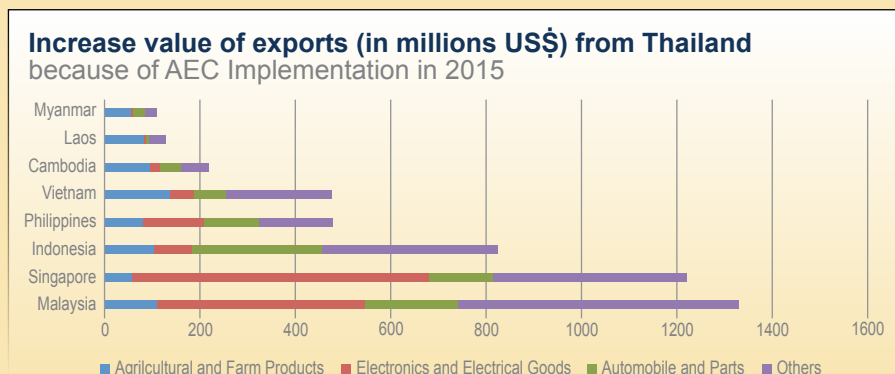
GDP

タイ商工会議所大学の国際貿易研究センターは、2015年の関税率0%化がタイのGDPに与える影響を予測しています。それによると、タイのGDPの成長率はシンガポールの1.80%に続いて2番目に高い1.75%になると見込まれています。



タイとアセアン諸国間の外国貿易の成長

タイ商工会議所大学の国際貿易研究センターは、タイとアセアン諸国間の外国貿易の影響に関する分析も報告しています。それによると、2015年のCLMV諸国の輸入関税が0%になることで、タイの輸出高は48億500万米ドル増加すると予想されています。輸出高が最も増える相手国はマレーシアで、以下シンガポールの13億3,440万米ドル、インドネシアの8億2,780万米ドルと続きます。



電子・電気製品及び自動車製品をはじめとするタイの消費財はアセアン諸国での需要が高く、特にマレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピンでそれが顕著です。2015年に輸入関税0%化が実現すれば、タイの食品に対する需要が全てのアセアン諸国で急上昇することが予想されます。CLMV諸国に関しては、国境超えのルートも加わりタイ製品が輸入されるでしょう。

国際的な多国籍企業(コングロマリット)はタイにおける生産能力を増強しつつあります。タイをアセアン向けに販売する製品の生産拠点とすることが彼らの戦略だからです。強度の高い床と屋根を備え、広い貯蔵スペースを有する国際標準を満たして建設された物流及び倉庫スペースのニーズが急激に高まっています。ところが成長著しい物流産業ですら急上昇する消費者ニーズに追いついていません。

これらの要因に基づき、リスクの大きくない安定した投資先を探し、3年もしくはそれ以上の長期的投資から確実なリターンと成長を求める投資家に対しては、工場及び/又は倉庫に投資する不動産投資信託(REIT)を考慮されることをお勧めしたいと思います。Ticon Industrial Connection Public Company Limitedは、不動産投資信託の管理を委ねるTICON Management Company Limited (TMAN)と共に、タイコン不動産投資信託すなわちTREIT事業を始めしています。

投資家はwww.ticon.co.th/en/reitでTREITに関する詳しい情報を得ることができます。■



TOKYO PARTS INDUSTRIAL

Tokyo Parts Industrial (Thailand) Co., Ltd.

Tokyo Parts Industrial (Thailand) 株式会社は、カードキー及びオートロックシステム製品などを製造する日本の電気部品及び自動車部品メーカーで、同社は最近、その業務拡大のため、ロジャナ工業団地内のTICON工場(面積1,500㎡)を賃借した。



Kintetsu Logistics (Thailand) Co., Ltd.

近鉄ロジスティクス(タイランド)株式会社は国際及び国内航空輸送、輸出及び輸入、輸送及び配送などを行っている日本の物流サービス提供会社です。同社は最近、その事業拡張に資するため、TPARKレムチャバン2の倉庫(2,900㎡)の追加賃借を決定しました。



Linfox M Logistics (Thailand) Limited

Linfox M Logistics (Thailand)株式会社は倉庫管理、サプライチェーンサービス、輸送管理などを行うオーストラリアの物流サービス提供会社です。同社は先ごろ、TPARKワンノイ2の約10,000㎡の注文建築倉庫を賃借しました。この注文倉庫はレストランチェーン用の物流事業をサポートするため、建物自体が通常倉庫と冷蔵倉庫に分けられています。



Meiko Asia Co., Ltd.

メイコー・アジア株式会社は、2014年3月27日に100% 独資の日系企業として設立され、昨今の物流事情や2015年からスタートするAEC (ASEAN Economic Community) による事業環境の変化を見据えた顧客に対し、名港海運グループが総合物流プロバイダーとしてより良いサービスを提供する為、TPARKレムチャバン2のフリーゾーン倉庫 (合計面積8,950㎡)を賃借しました。



Thai Kin Manufacturing Co., Ltd.

TPARKバンナの倉庫3戸(合計3,600㎡)の契約締結をした自動車部品及び農業機械メーカーであるThai Kin Manufacturing株式会社は、同じくTPARKバンナの倉庫1,550㎡の追加賃借を決定しました。これらの倉庫は自動車部品の備蓄と同社の事業拡張をサポートするために使用されます。



Trancy Logistics (Thailand) Co., Ltd.

トランシーロジスティクス(タイランド)株式会社は海上輸送、航空輸送、通関業務、サプライチェーン管理と物流などを行う日本の物流サービス提供会社で、同社は最近、顧客に対するサービス提供のため、TPARKイースタンシーボード2(A) の倉庫(2,450㎡)を追加賃借しました。同社は現在、イースタンシーボード地区で合計7,913㎡の倉庫を賃借しています。

もうひとつのタイコンプロジェクトをご紹介します。



もうひとつのタイコンプロジェクトをご紹介します。スワンナプーム国際空港、ラカバン内陸コンテナ基地、その他の主要工業団地などの重要なランドマークに囲まれた、バンコクに最も近い工業団地、アジア工業団地スワンナプーム(AIES)内にある賃貸用既設工場を紹介します。本プロジェクトで提供されるのは、特に自動車産業や電子産業を操業している中小企業に適した特殊サイズの550㎡から4,200㎡までの工場です。このプロジェクトの第1フェーズは2015年2月にサービス提供できるよう準備を整えていますので、予約で全て埋まる前にお早めにご予約ください。

賃貸可能物件情報

場所: アジア工業団地スワンナプーム(AIES)

一般ゾーン

工場面積: 550㎡ - 4,200㎡

床耐荷重: 2t/㎡

天井高さ: 7m

お問い合わせ又は工場見学:



電話: +66 (0) 2679 6569

メール: marketing@ticon.co.th

又は info@ticon.co.th (日本語)



Check
Available Buildings
here!

本号では、レムチャバン港をはじめ、タイ東部の様々な重要工業団地の近くに戦略的に立地するTPARK レムチャバン-2プロジェクトをご紹介します。本プロジェクトはハイウェイに隣接していて物流や配送に便利であり、さらに自動車産業や電子産業の物流や輸出入にも適しています。また、本プロジェクトではフリーゾーンの利用も可能です。このような利点を備えた倉庫をお探しなら、下記にご連絡ください。

賃貸可能物件情報

場所: ハイウェイ7号線、ソイ・ワットシーラッタナラム (ポーヒン寺)、

一般ゾーン

倉庫面積: 1,500㎡ - 9,000㎡

床耐荷重: 3t/㎡

天井高さ: 10m



詳細お問合せ、倉庫見学希望の方は以下までご連絡下さい。



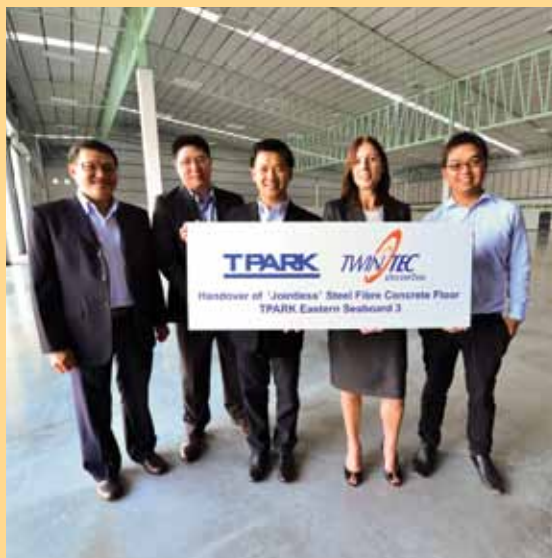
電話: +66 (0) 86342 9669

メール: tpark@ticon.co.th



Check
Available Buildings
here!

TPARK とTwintecが提携 タイにおけるレンタル倉庫の標準向上へ



TICON Logistics Park Co., Ltd. (TPARK)社長のPatan Somburanasin (中央)、Twintec Industrial Flooring社の国際事業開発担当取締役Mrs. Ruth Waugh (右から2人目)、Twintec (Thailand) Co., Ltd. の事業開発マネージャーMr. Kantanat Chaipermak (右端)、TPARKのゼネラルマネージャー Tan Jitapunkul (左から2人目)、TICON のプロジェクト開発リーダーPeerapat Srisukont (左端)。

高品質の物流倉庫団地と賃貸倉庫の開発で評価の高いTICON Logistics Park Co., Ltd. (TPARK)は、“継ぎ目のない”スティールファイバー補強による産業用コンクリート床材 (SFRC)の世界的生産会社であるTwintec Industrial Flooring社と提携し、最新のSFRC技術をTPARK倉庫団地内の床張りに採用することになりました。今回の提携は、タイにおける賃貸倉庫の新たな基準を設定し、TPARKが世界最先端の技術を誇る建設業者やサプライヤーなどと持続的な関係を結ぶことによって顧客ニーズに最大限に応えることを目的としたものです。

このたび、SFRC技術を使用したTPARKイースタンシーボード3の7,000㎡の倉庫がTPARKに引き渡されました。コンクリートとスティールファイバーを使って建設されたこの倉庫の床は床板の継ぎ目がなく、これによって床の強度と寿命を最大限に高め、倉庫内での効率的な物流作業が実現可能となります。■



TPARK Bangplee 1のワトソンズ社倉庫において行われた開所式。Central Watsons Co., Ltd.代表取締役のRod Routley氏 (右から4番目)に祝意の花を贈るTPARK社長のPatan Somburanasin (左から2人目)。

Watsonsが新たな物流センターを TPARK Bangplee 1にオープン

健康・美容関連品販売でタイ国内トップのドラッグストアチェーン“ワトソンズ”はこのほど、TPARK Bangplee 1において、新倉庫の開所式を催しました。物流及び配送の戦略的地域に位置するこの倉庫によって、ワト

ソンズは医薬品及び健康・美容関連品の物流業務を更に拡大することが可能となります。この注文倉庫はTPARKが顧客のニーズに応じて開発したもので、床面積は20,000㎡以上になります。■

ピントン工業団地の工場用地290ライ購入



写真は、土地購入契約調印式でのTICON社社長のVirapan Pulges (中央左)とピントン工業団地会社取締役のSomsri Duangprateep氏 (中央右)。TICON最高財務責任者のLalitphant Phiriyaphant (左端)とピントン社部長の柘植隆治氏 (右端)が同席。

TICONはこのほど、タイ東部の代表的工業団地運営会社であるPinthong工業団地株式会社と、ピント

ン・フェーズ5の土地290ライを購入する契約書を交わしました。■



“TICON”が“TREIT”を正式に発売

JWマリオットホテル・バンコクにて。TICON INDUSTRIAL CONNECTION PUBLIC COMPANY LIMITEDいわゆるTICONの代表取締役であるウィーラバン・ブーンケー氏 (中央)が、TICON MANAGEMENT CO., LTD.の代表取締役アモン・チュラーラクサナーヌクーン氏 (右から2人目)と、バンコク銀行公開株式会社のアシスタント・ゼネラルマネ

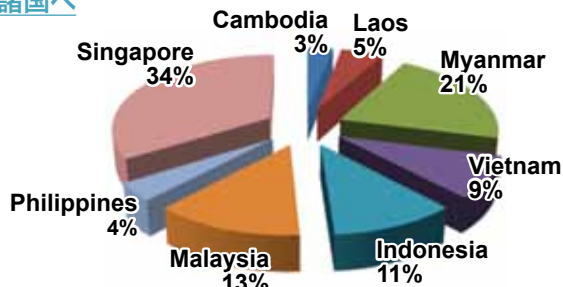
ージャーであるニラント・オーバームラターウォン氏 (左)と共同で“TICON 自由保有・賃借不動産投資信託”いわゆるTREIT を発売し、プロジェクト価額約4,500万バツのTICONグループのワールドクラスのレンタル倉庫・工場における初回の投資取引を始めた。同投資信託は3-5年の間に地域レベルで200億バツに成長させる目標を立てている ■

持続性のある道： タイへの投資が アセアンへの道を拓く（第2部）



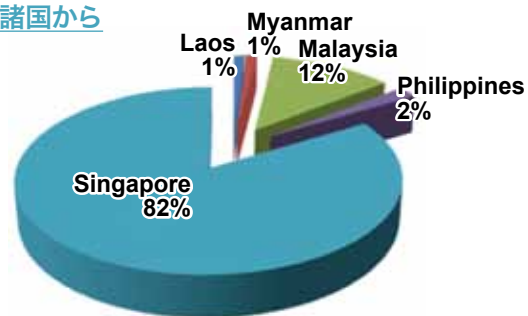
タイとアセアン諸国との直接投資の割合は以下のとおりです。

タイからアセアン
諸国へ



Unit: Percentage

アセアン諸国から
タイへ



Unit: Percentage

(出所: タイ投資委員会 (BOI))

持続性への道: タイへの投資 – アセアンへの道を拓く (第2部)



ASEAN経済統合体(AEC)が発足すると、プラスだけでなくマイナスの影響も現れてくるでしょう。そのひとつとして、域内貿易の障壁撤廃によって他のアセアン諸国から大量の製品がタイに流入、過当競争が発生すると想定されます。このような状況はもちろん、タイ国内投資家にはビジネス上のマイナス要因とみなされます。関連法律・法規・規則が改定・改正されなければ、生産拠点をタイから他国に移転させる投資家のみならず、より高い報酬を求めて流出する熟練労働者が現れることも予想されます。アセアン諸国からタイ国内市場への低品質な製品の流入を未然に防ぐメカニズムを確立しないと、高品質な製品を製造する産業はいずれ、さまざまな問題に遭遇することになります。

「志あれば道は開ける」ということわざがあります。AECの目標に沿って、“赤い海(=戦場)”を“可能性”と“機会”を共有する市場に変貌させることが出来れば、私たちIEATも“エコ工業団地”として経済の持続的発展を促すことが可能となるわけです。

AEC発足後のキーとなりうる産業への影響	持続的な成長を促すため、“エコ工業団地”はいかにしてタイ産業への道を切り開くのか
過当競争に陥る市場	環境に優しい生産システムの導入で生産を増加させる。創造、改善、知的財産の所有によって、アセアン地域で“タイ製品”と認められるための付加価値を農産物に与える。
低品質製品の流入	環境に優しいとはいえない工程で生産された低品質の商品よりも、環境に優しいと認められた安心な商品を選択できるよう、国内消費者が環境に関する理解と認識を持つ。
生産拠点の移転	タイ産業界は経済、社会、環境、人材などのバランスが保たれ、そのバランスこそが投資の長期持続を促すという認識を確立させる。
需要の高い“求められる”労働者の流出	エコ工業団地は、全労働者の生活の質と労働環境の向上を目指し、熟練労働者の流出を減少させる。

“エコ工業団地”というコンセプトに沿って安全な道を進みビジネスのバランスを保つことは、ビジネス、社会、文化、自然を結合させて持続的な成長を促すためだけでなく、タイという国が“魅力ある投資先”としてAECと共に前進するためのソリューションでもあります。



ート・クア(塩味の鶏肉のから揚げ)、カイスアップ・フップボーン(茹でた鶏肉)、トムヤムカイ・モーファイ(火鍋に入った辛い鶏肉スープ)などですが、それ以外にもパットブリックカブラオ・カイクランナイ(鶏肉と鶏臓物のバジル炒め)、カイチャオ・カイスアップ(細切れ鶏肉のオムレツ)、パットチャーカイ(ハーブ入り揚鶏肉炒め)などの鶏肉料理を揃えています。

シラチャ近辺にお出でになった際は是非このおいしい鶏肉をお試しください。では来年またお会いしましょう。

Happy New year.

味 ★★★★★
値段 ★★★★★
雰囲気 ★★★★★

レストラン “カイ・フップボーン”

営業時間：
毎日 07.00 - 18.00.

所在地: TPARK Laemcha-
bang 1 及び2倉庫団地の近く

住所: 100/1-2 Moo 3
(Kao Kilo Road) Tambon
Surasak Amphoe Siracha,
Chonburi 20110

電話: 081-344-6288



可



不可



今年最後にお届けするTake a Breakでは、鶏肉料理の愛好家の皆様に、35年以上にわたる伝統と長い歴史を誇るレストラン“カイ・フップボーン”にご案内します。シラチャにお出での際はお見逃しなく。

カイ・フップボーンという店名は、シラチャ郡フップボーン村に由来します。この店の鶏肉は祖母の時代から連綿と受け継がれた秘伝のレシピで調理されていることを、店のオーナーがこっそり打ち明けてくれました。そういうわけで常連客・初めてのお客を問わず、毎日賑わっていますので必ず予約されることをお勧めします。

この店の名物メニューは、カイト

読者の皆さんはForward誌でこの店を知ったことを店に伝えるだけで、食事代5%の特別割引が適用されます。■

18 INDUSTRIAL ESTATES/PARKS



*Fast, Simple, Flexible, Efficient way
to manufacture in Thailand.*

32 LOCATIONS TOTAL 4 MILLION SQ M



TICON

**FACTORIES
FOR RENT**

Contact us:

Tel: +66 (0) 2679 6565

Email: marketing@ticon.co.th

info@ticon.co.th (Japanese)

www.ticon.co.th

TPARK

**WAREHOUSES
FOR RENT**

Contact us:

Tel: +66 (0) 86342 9669

Email: logistics@ticon.co.th

www.ticon.co.th